「詩あきんど」歌仙

酒債尋常往ク處ニ有
人生七十古來稀ナリ

一　詩あきんど年を貪ル酒債哉　其角
二　冬湖日暮て駕馬鯉　芭蕉
三　干鈍き夷に関をゆるすらん　同
四　三線○人の鬼を泣しむ　角
五　月は袖かうろぎ睡る膝のうへに　同
六　鳴の羽しばる夜深き也　蕉
七　恥しらぬ僧を笑ふか草薄　同
八　しぐれ山崎傘を舞　角
九　笹竹のどてらを藍に染なして　蕉
一〇　狩場の雲に若殿を恋　角
一一　一の姫里の庄家に粮はれ　蕉
一二　鼾名に立つと云題を責けり　角
一三　ほとゝぎす怨の霊と啼かへり　蕉
一四　うき世に泥む寒食の痩　角
一五　沓は花貧重し笠はさん俵　蕉
一六　芭蕉あるじの蝶丁見よ　角
一七　腐レたる俳諧犬もくらはずや　蕉
一八　鰥々として寐ぬ夜ねぬ月　角

一九　聟入の近づくまゝに初砧　同

二〇　たゝかひやんで葛(くず)うらみなし　蕉

二一　嘲(アザケ)リニ黄・金ハ鋳(ル)二小紫(ヲ)一　角

二二　黒鯛くろしおとく女(め)が乳　蕉

二三　枯藻(モ)髪栄螺の角を巻折らん　角

二四　魔・神を使(シ)トス荒海の崎　蕉

二五　鐵(くろがね)の弓取(とりタケ)猛き世に出よ　角

※鐵の字金ヘン＋截

二六　虎懐(フトコロ)に妊(ヤド)るあかつき　蕉

二七　山寒く四‐睡の床(とこ)をふくあらし　角

二八　うづみ火消て指の灯　蕉

二九　下司(ゲス)后朝をねたみ月を閉(とづ)　角

三〇　西瓜を綾(アヤ)に包ムあやにく　同

三一　哀いかに宮城野のぼた吹凋(シホ)るらん　蕉

三二　みちのくの夷(エゾ)しらぬ石臼　角

三三　武士の鎧の丸寐まくらかす　蕉

三四　八声(やごゑ)の駒の雪を告つゝ　角

三五　詩あきんど花を貪ル酒債哉　同

三六　春・湖暮て駕(ノル)、興(ニ)吟　蕉